

平成16年食中毒発生状況の概要について

平成17年7月
厚生労働省食品安全部

1. 発生状況（事件数、患者数、死者数）

平成16年に国内で発生した食中毒事件数は1,666件（対前年+81件）、患者数28,175件（対前年▲1,180人）、死者数5人（対前年+1人）であった。

また、患者500人以上の食中毒の発生はなかった（前年2件）。

2. 月別発生状況

食中毒事件の発生は7月から9月の3カ月の事件数で675件と、年間発生件数の40.5%を占めていた。患者数でも、7月から9月にかけては毎月3,000人前後の患者が発生しており、この3カ月で8,888人と年間の患者数の31.5%を占めた。しかし、ノロウイルスによる大規模な食中毒が12月に頻繁に発生し（患者100名以上が9件）、12月においても、5,345人（19.0%）の患者数が報告された。

3. 病因物質別発生状況

- 病因物質の判明したものは、事件数1,597件（95.9%）、患者数26,355人（93.5%）であった。病因物質別の事件数は、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（558件）、ノロウイルス（277件）、サルモネラ属菌（225件）、腸炎ビブリオ（205件）の順が多かった。病因物質別の患者数は、ノロウイルス（12,537人）、サルモネラ属菌（3,788人）、腸炎ビブリオ（2,773人）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（2,485人）の順が多かった。
- 腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数18件、患者数70人で、血清型は全てO157であった。
- 死者が発生した食中毒事件の病因物質は、動物性自然毒（2人）、サルモネラ属菌（2人）、植物性自然毒（1人）であった。
- 病因物質別発生状況の年次別推移では、腸炎ビブリオ及びサルモネラ属菌は、事件数、患者数ともに、平成10、11年をピークとして減少傾向がみられるが、他の病因物質と比較するとまだ発生件数は多い。細菌による食中毒では、近年、カンピロバクターが増加傾向にある。
- また、平成9年に病因物質としてノロウイルス（当初は小型球形ウイルス）を追加して以降、ノロウイルスを原因とする食中毒事件が事件数、患者数ともに増加している。

4. 原因食品・施設別発生状況

- 原因食品の判明したものは、事件数875件（52.5%）、患者数23,566人（83.6%）であっ

た。

- 原因食品別の事件数は、魚介類(147件)、野菜及びその加工品(100件)、複合調理品(90件)、肉類及びその加工品(52件)の順が多かった。
- 原因食品別の患者数は、複合調理食品(3,052人)、次いで魚介類(1,334人)、肉類及びその加工品(932人)、菓子類(921人)の順が多かった。
- 原因施設の判明したものは、事件数974件(58.5%)、患者数26,735人(94.9%)であった。
- 原因施設別の事件数は、飲食店(462件)に次いで家庭(212件)、旅館(108件)の順で多く、原因施設別の患者数は、飲食店(11,633人)、旅館(4,609人)、仕出屋(3,351人)の順が多かった。
- 死者が発生した食中毒事件の原因施設は、家庭(3人)、販売所(1人)、不明(1人)であった。

5. その他

平成16年食中毒発生状況の詳細等については、厚生労働省食品安全部ホームページ「食中毒・食品監視関連情報」(<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/index.html>)で公開している。

表1 年次別食中毒発生状況

年次	事件数	患者数	死者数
56	1,108	30,027	13
元年	927	36,479	10
6	830	35,735	2
7	699	26,325	5
8	1,217	46,327	15
9	1,960	39,989	8
10	3,010	46,179	9
11	2,697	35,214	7
12	2,247	43,307	4
13	1,928	25,862	4
14	1,850	27,629	18
15	1,585	29,355	6
16	1,666	28,175	5

年次	病因物質	事件数	患者数	死者数
12	サルモネラ属菌	518	6,940	1
	カンピロバクター	469	1,784	0
	腸炎ビブリオ	422	3,620	0
	小型球形ウイルス	245	8,080	0
	その他・不明	593	22,883	3
13	サルモネラ属菌	361	4,949	0
	カンピロバクター	428	1,880	0
	腸炎ビブリオ	307	3,065	0
	小型球形ウイルス	269	7,358	0
	その他・不明	563	8,610	4
14	サルモネラ属菌	465	5,833	2
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	447	2,152	0
	腸炎ビブリオ	229	2,714	0
	小型球形ウイルス	268	7,961	0
	その他・不明	441	8,969	16
15	サルモネラ属菌	350	6,517	0
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	491	2,642	0
	腸炎ビブリオ	108	1,342	0
	小型球形ウイルス	278	10,603	0
	その他・不明	358	8,251	6
16	サルモネラ属菌	225	3,788	2
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	558	2,485	0
	腸炎ビブリオ	205	2,773	0
	ノロウイルス	277	12,537	0
	その他・不明	401	6,592	3

表2 平成16年 死者が発生した食中毒事例

No.	発病月日	原因施設種別	原因食品名	病因物質	患者数	死者数	摂食者数	死者の性別、年齢
1	1月10日	販売店	フグ(家庭での夕食)	テトロドトキシン	3	1	3	男、60～69歳
2	7月22日	家庭	きのこ料理(推定)	ドクツルダケ(推定)	1	1	1	女、60～69歳
3	9月13日	家庭	マフグの肝臓	テトロドトキシン	1	1	1	男、60～69歳
4	9月29日	家庭	不明	<i>Salmonella haifa</i>	2	1	3	男、70歳～
5	11月30日	不明	不明	<i>Salmonella enteritidis</i>	3	1	6	男、40～49歳

表3 平成16年 月別食中毒発生状況

[illegible]

食中毒発生時の行政対応について

